

アカクローバ「SW RK1124」

1 特性の概要

(1) 来歴

- 1) 品種名：「SW RK1124」
- 2) 育成者：Lantmännen（ラントメネン）社、スウェーデン
- 3) 導入者：雪印種苗株式会社
- 4) 登録：OECD 2019年

(2) 特性（標準品種「アレス」と比較）

- 1) 早晩性：開花始日は標準品種と同じ晩生に属する（表1）。
- 2) 混播適性：マメ科率は2年目が42%、3年目が22%と標準品種と同程度であり混播適性は高い（表2）。
- 3) 競合力：開花程度は標準品種と同程度であり、2番草の草丈は同程度である（表1）。よって、競合力も同程度である。
- 4) 越冬性；越冬性関連形質は標準品種と同程度である（表1）。
- 5) 永続性：RCの3年目/2年目収量比はやや低いが、RC+TYの3年目/2年目収量比は同程度であり、全体としては同程度である（表1）。
- 6) 耐病性：葉枯れ性病害罹病程度は同程度であるが、うどんこ病罹病程度はやや低く、クローバ菌核病罹病程度は低い（表1）。
- 7) 収量性：混播収量は標準比98と並である（表3）。

(3) 長所及び短所

長所はクローバ菌核病罹病程度が低く、うどんこ病罹病程度がやや低い。短所は特になし。

(4) 用途

家畜のえさとしてイネ科牧草との混播で用いる。

表1 主要形質の調査結果

	SW RK1124	アレス	評価基準	備考
開花始日（1番草）	7/2	7/2	暦日	北農研単播
着花茎程度（1番草）	2.0	2.1	1:無-9:極多	全場所平均
草丈（2番草）	42	44	cm	全場所平均
越冬性	5.7	5.4	1:極不良-9:極良	全場所平均
早春の草勢	6.0	6.0	1:極不良-9:極良	畜試
クローバ菌核病罹病程度	2.0	4.3	1:無-9:極多	北農研単播
うどんこ病罹病程度	2.7	3.2	1:無または極微-9:甚	全場所平均
葉枯れ性病害	2.1	2.0	1:無-9:極多	全場所平均
秋の被度（3年目）RC	38	39	%	全場所平均
3年目/2年目収量比 RC +TY	92	93	%	全場所平均
3年目/2年目収量比 RC	58	64	%	全場所平均

表2 マメ科率 (%)

	2年目	3年目
SW RK1124	42.2	22.4
アレス	38.0	23.8

4 場所平均

表3 混播試験における3カ年の乾物収量

	SW RK1124	(kg/a、%)					アレス	(kg/a)	
	TY	(比)	RC	(比)	全体	(比)	TY	RC	全体
北農研	198.4	96	129.2	108	327.8	101	206.0	119.8	325.7
酪農試	170.5	99	48.9	102	219.3	99	172.4	48.0	220.5
北見	153.2	100	97.3	94	250.3	97	153.7	103.5	257.1
畜試	137.5	93	58.3	106	195.8	96	147.9	55.2	203.1
平均	164.9	97	83.4	103	248.3	98	170.0	81.6	251.6

2 候補理由

アカクローバは北海道の基幹マメ科牧草で、タンパク質やミネラルの供給源として重要であり、固定窒素の供給源として窒素肥料の軽減効果も期待できる。「SW RK1124」はクローバ菌核病罹病程度が低い晩生品種であり、チモシー中生品種との混播に適しており、道内の高品質粗飼料生産に貢献することが期待できる。

3 普及

(1) 栽培適地

北海道一円

(2) 普及見込み面積

25000ha (作付総面積 560000ha、4.5%)

(3) 北海道農業試験会議 (成績会議) における判定

普及奨励事項

4 その他特記事項

チモシー中生品種との混播に利用する。市販種子の供給開始は令和6年を予定している。

5 参考データ

(写真)

アカクローバ「 SW RK1124 」



1 番草の草姿（北農研 2019 年 6 月 24 日撮影）